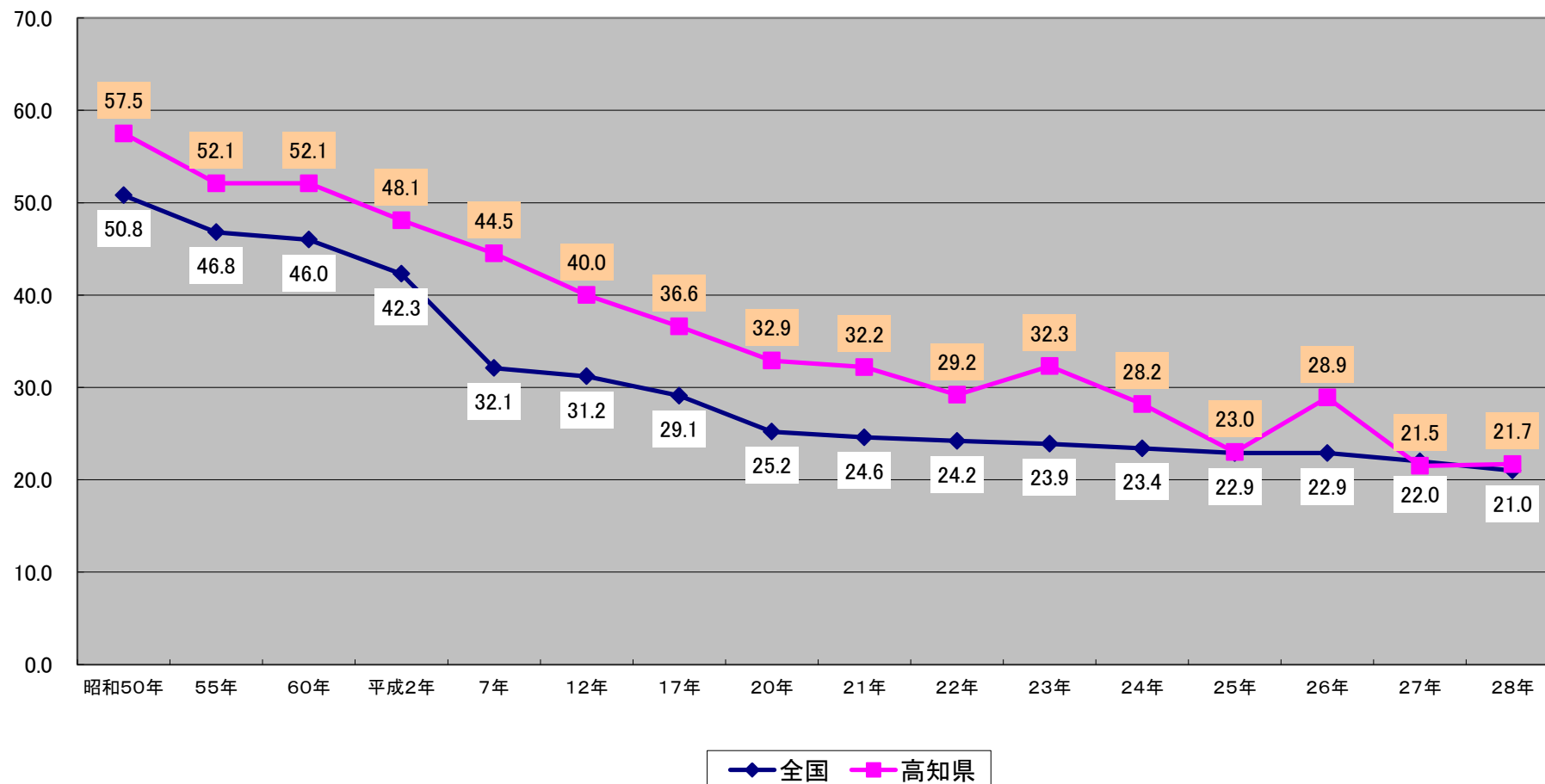


死産率の推移

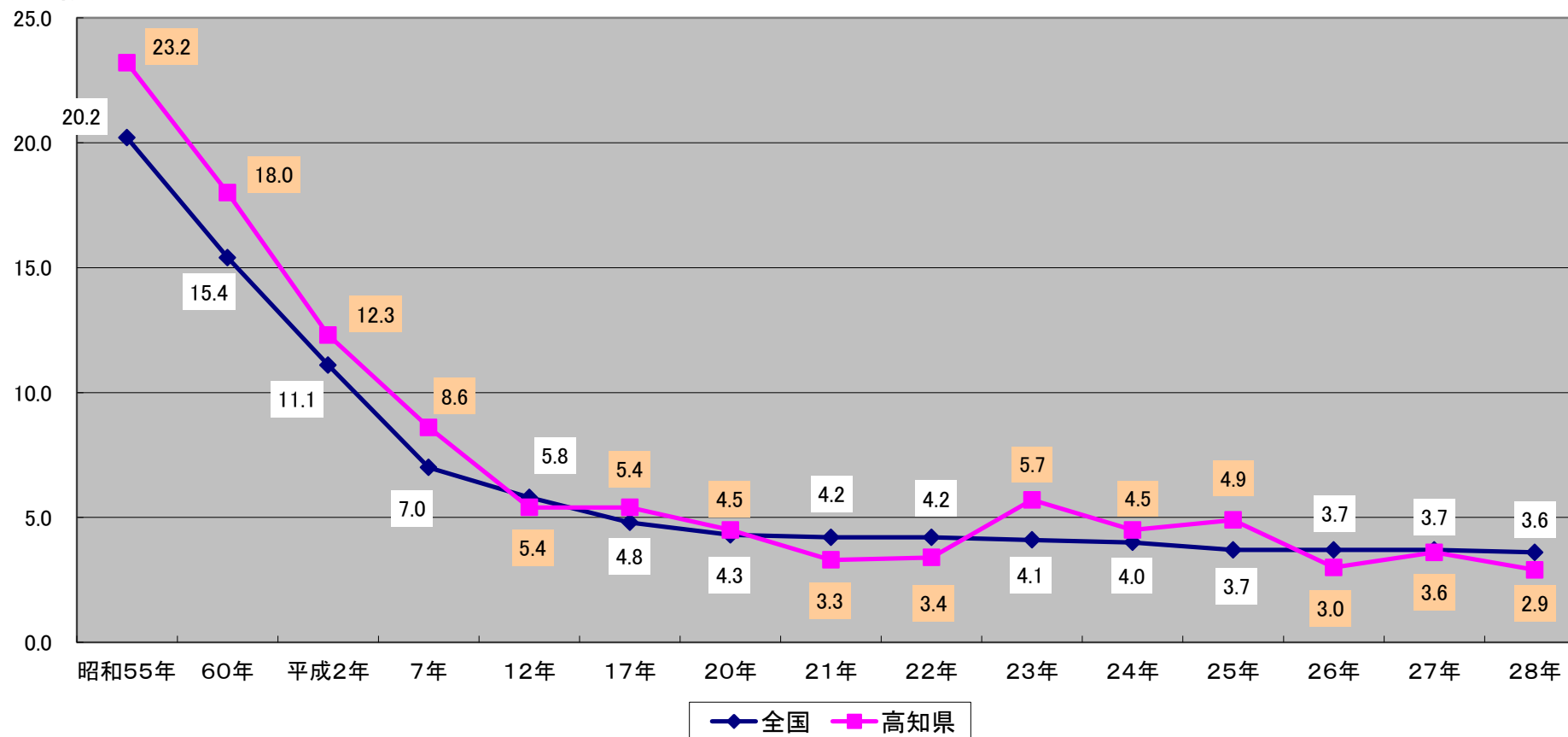
(出産千対) 死産率は、全国・本県ともに減少してきたが、本県は平成22年から23年、25年から26年にかけて増加した。
本県の死産率は全国より高い割合で推移していたが、平成27年以降は全国水準で推移している。



資料：厚生労働省「人口動態調査」による。

周産期死亡率の推移

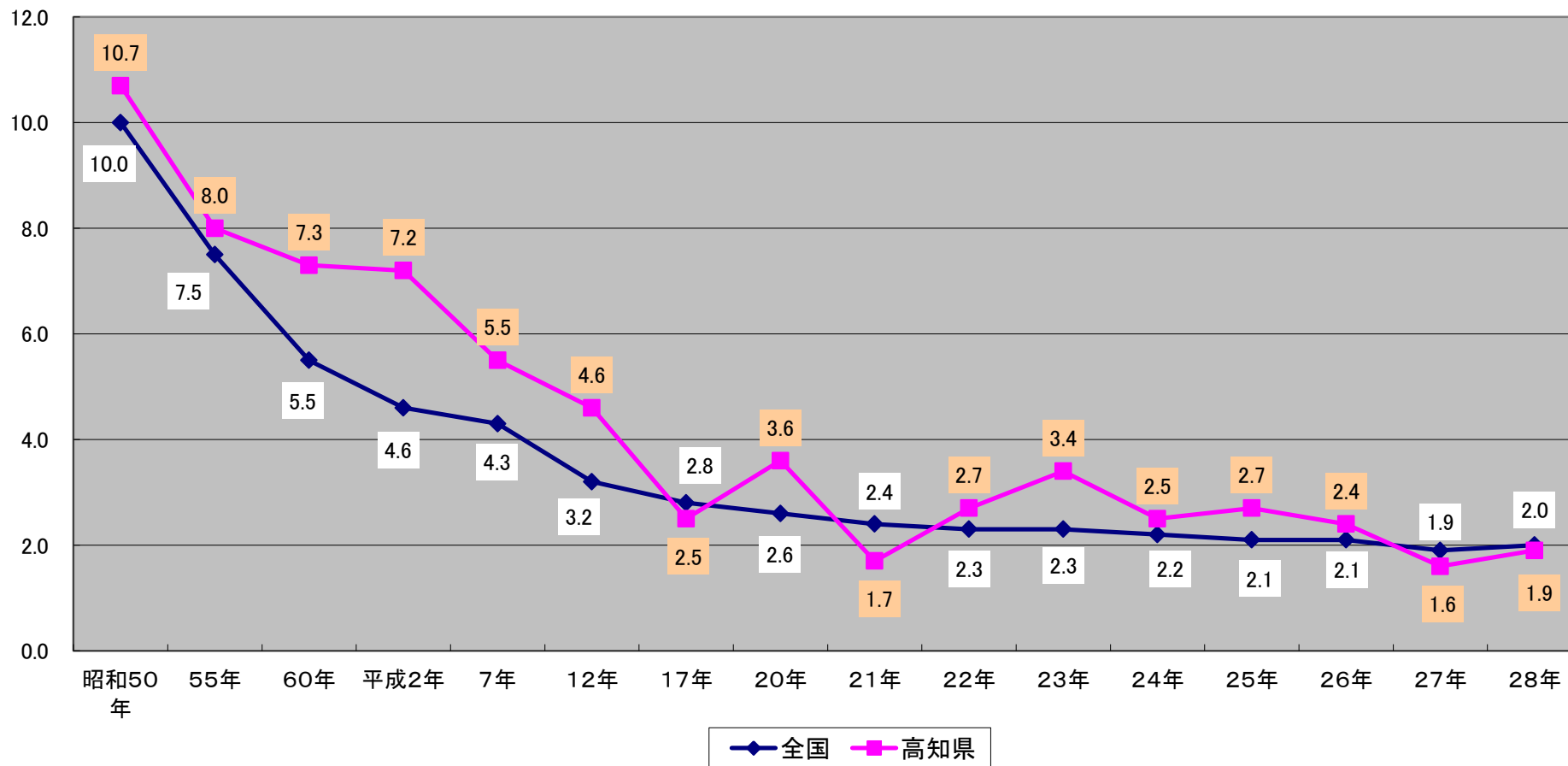
周産期死亡率は、全国、本県ともに減少傾向にあり、平成26年からは全国を下回っている。
(出生千対)



資料：厚生労働省「人口動態統計」による。周産期死亡率は、妊娠22週以後の死産率と早期新生児(生後1週未満)の死亡率を合わせたもの。

乳児死亡率の推移

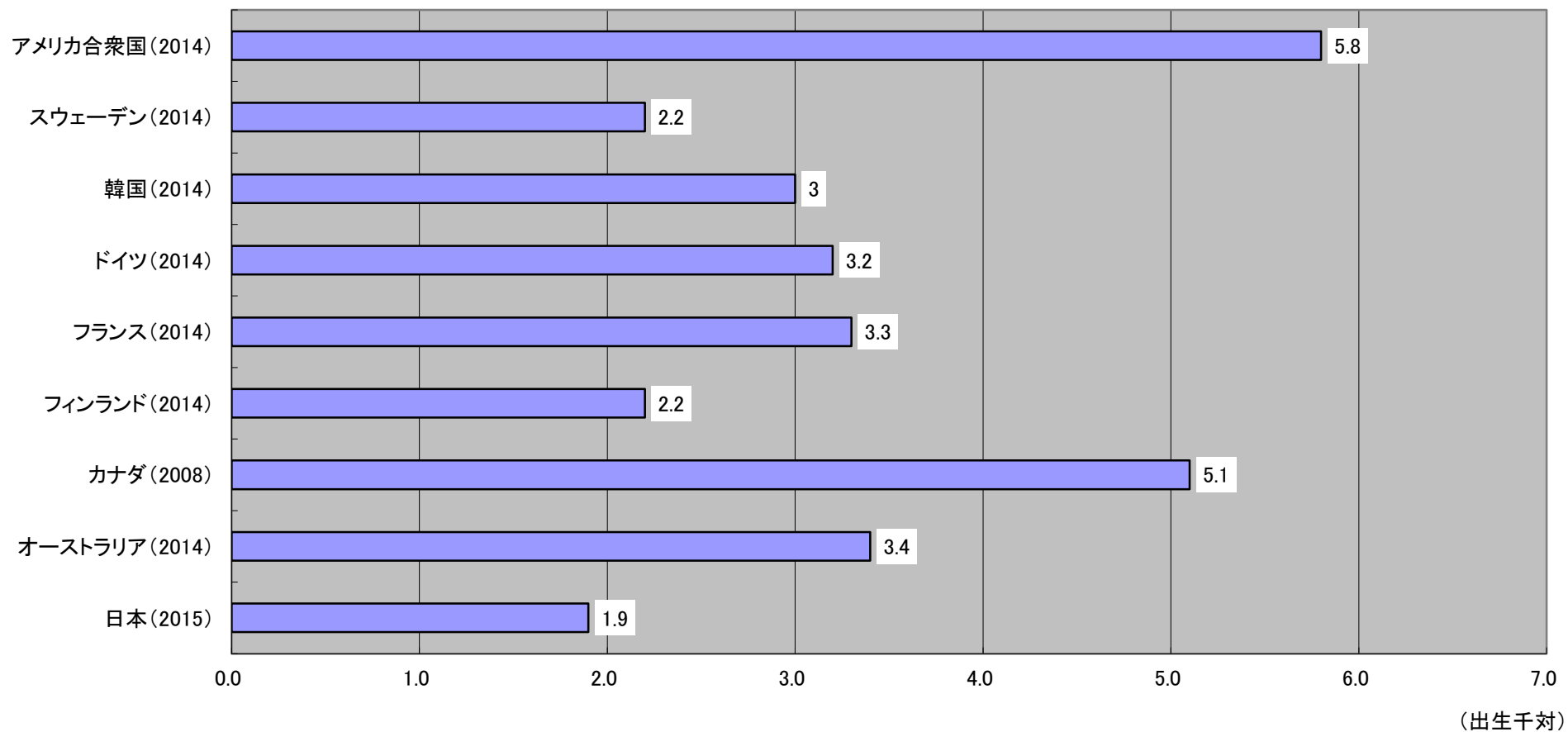
(出生千対) 全国・高知県ともに乳児死亡率は減少傾向にあり、本県は概ね全国よりも高い割合で推移していたが、27年からは全国を下回っている。



厚生労働省「人口動態統計」による。

主要国の乳児死亡率

我が国の乳幼児死亡率は1.9で、主要国の中でも低い水準にある。

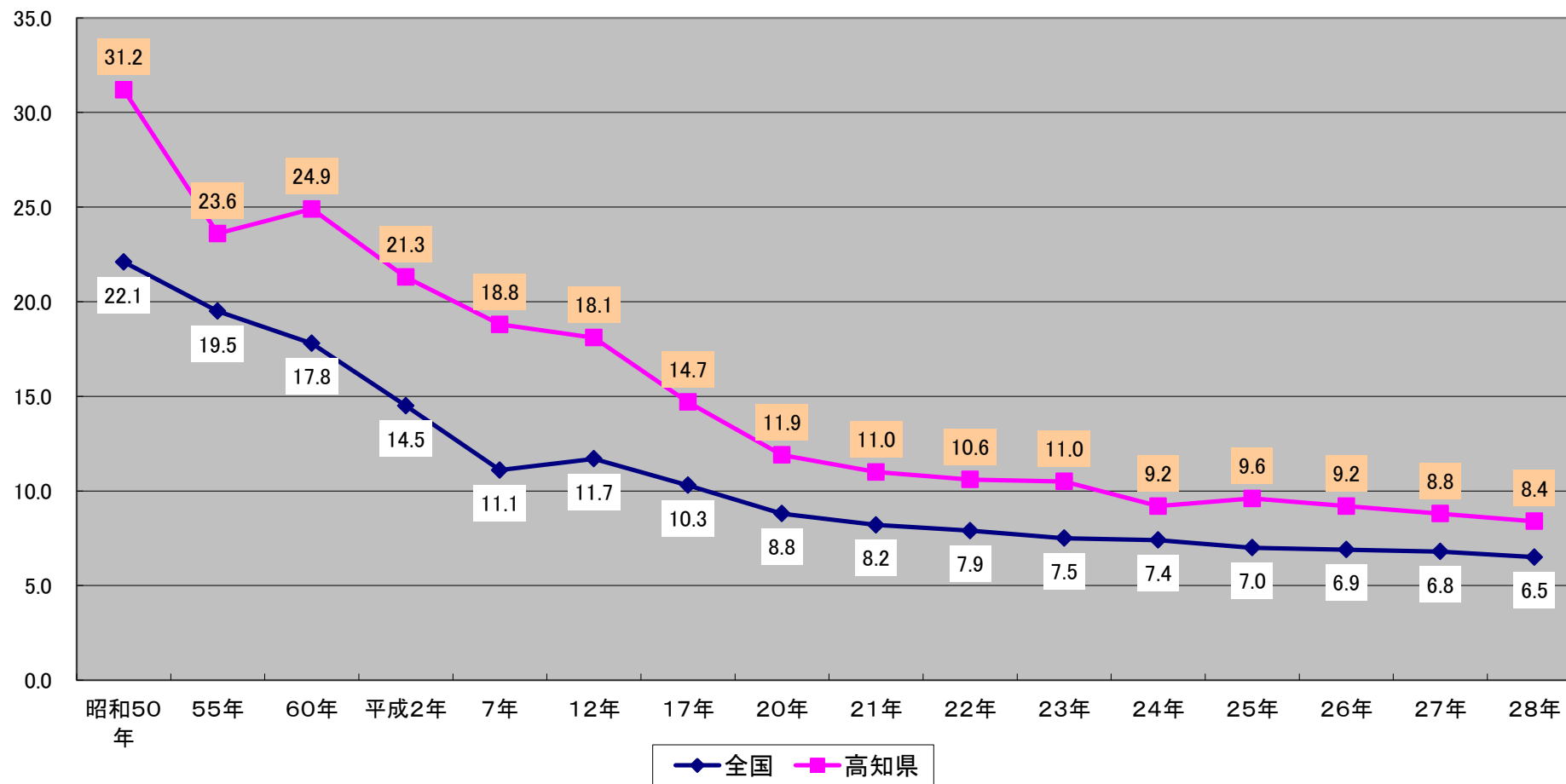


資料: 国立社会保障・人口問題研究所資料 (UN, *Population and Vital Statistics Report: Series A*). 日本は、厚生労働省統計情報部『人口動態統計』による。

15～49歳
女子人口
(千対)

人工妊娠中絶実施率の推移

人口妊娠中絶実施率は、全国、本県ともに減少傾向であるが、本県の人工妊娠中絶率は、全国よりも高い率で推移している。

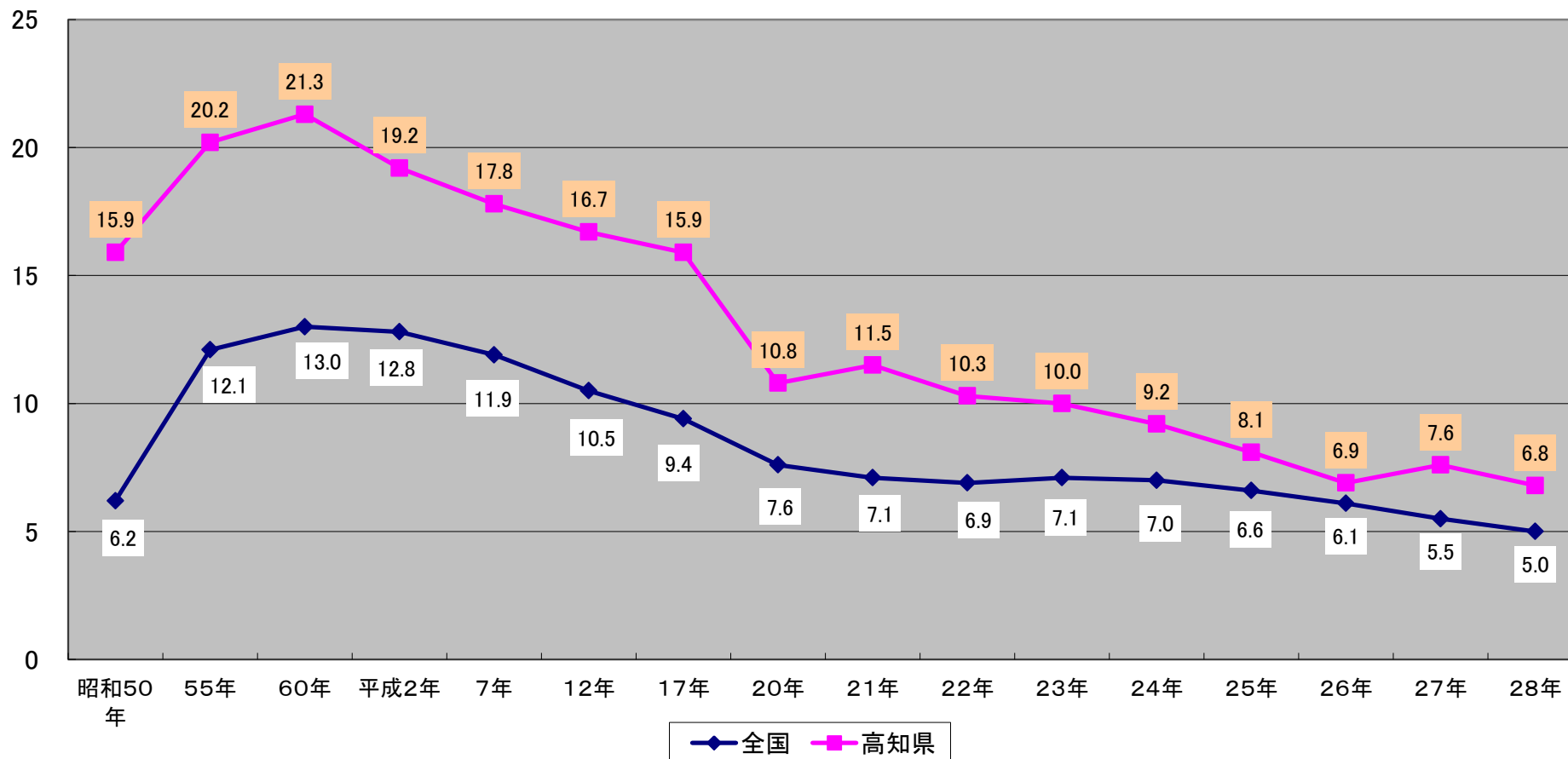


資料：厚生労働省「衛生行政報告例」による。15歳～49歳の女子を対象として算出

10代の人工妊娠中絶実施率の推移

15～19歳
女子人口
(千対)

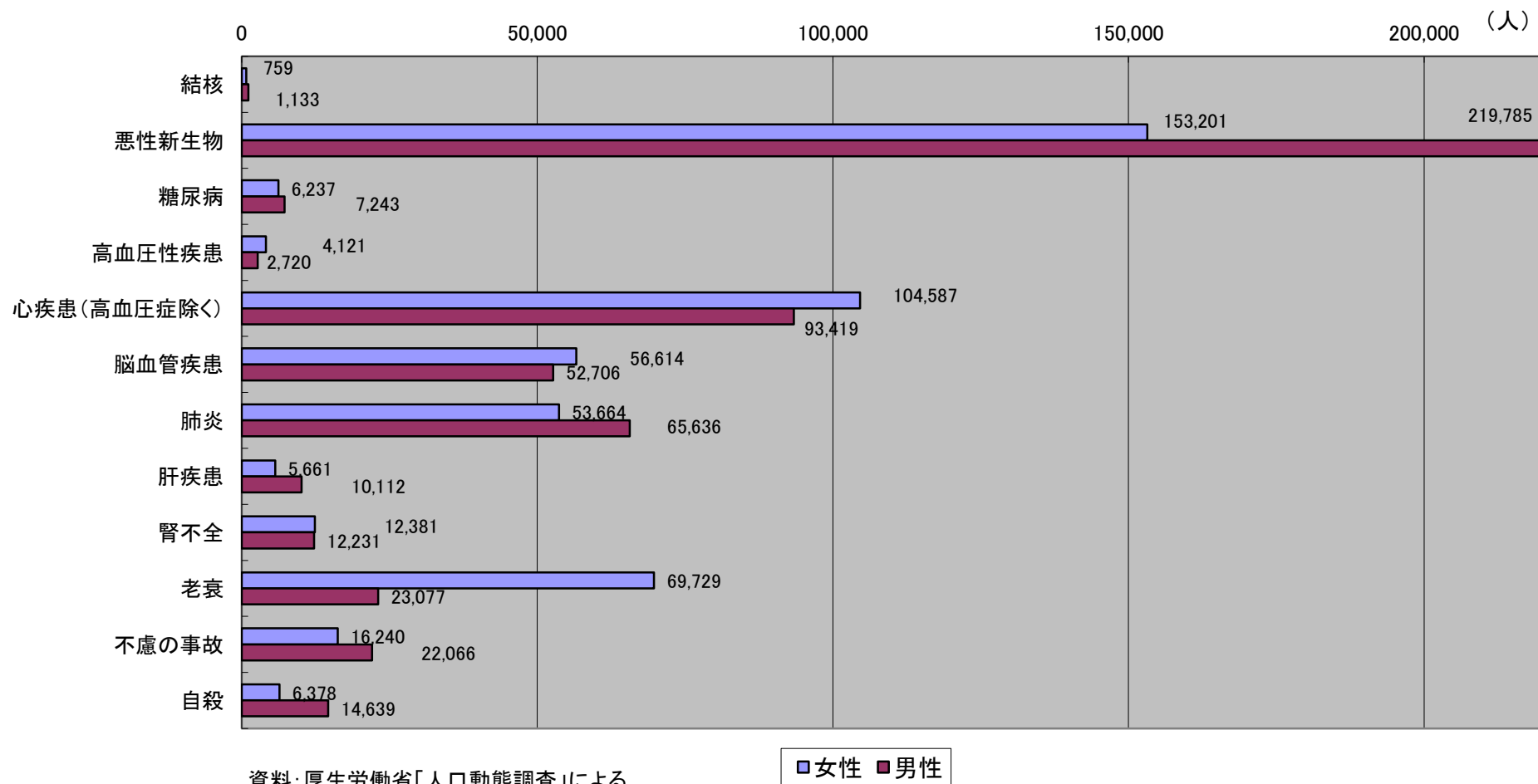
10代の人口妊娠中絶実施率は、全国、本県ともに減少傾向ではあるが、本県における10代の人工妊娠中絶率は、全国よりも高い率で推移している。



資料:厚生労働省「衛生行政報告例」による。20歳未満(15歳未満含む)の人工妊娠中絶件数を15～19歳の女子人口で除して得た割合

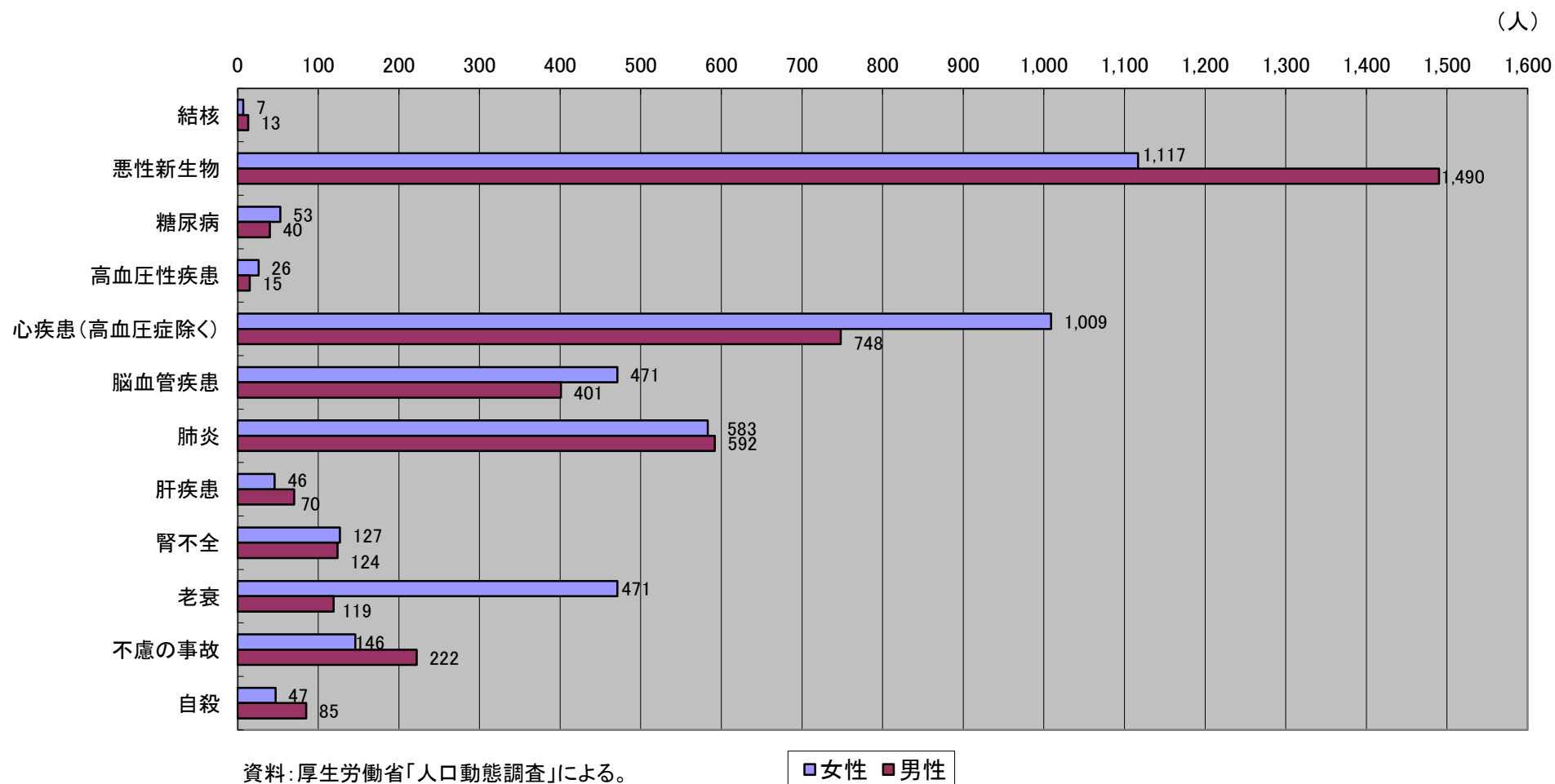
主要死因別死亡者数(全国:平成28年)

男女ともに悪性新生物を死因とする死亡者数が最も多く、次いで心疾患が多い。また、自殺者数は、男性が女性の2倍以上にのぼり、逆に老衰は女性が男性の3倍以上となっている。



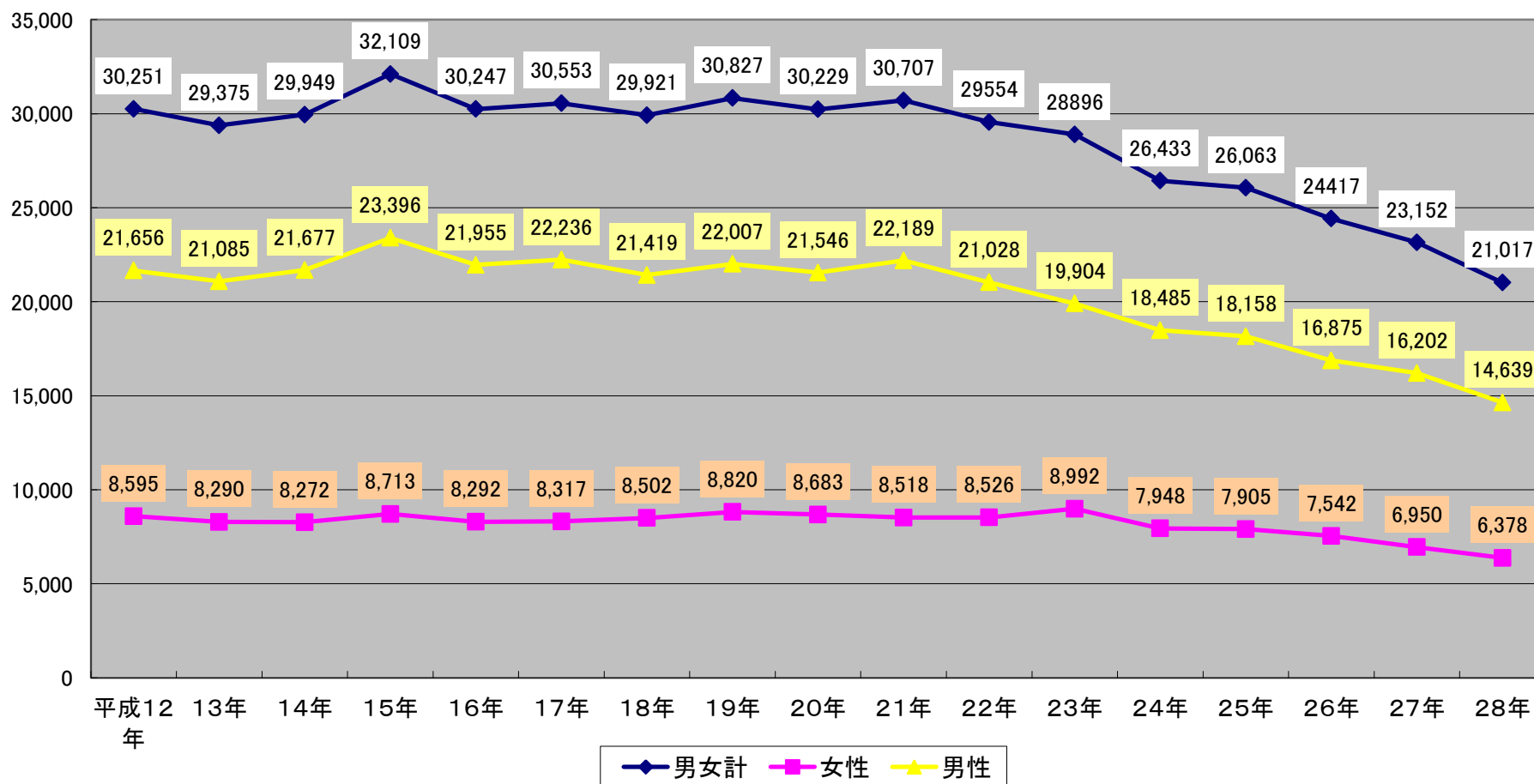
主要死因別死亡者数(高知県:平成28年)

男女ともに悪性新生物を死因とする死亡者数が最も多く、心疾患、肺炎、脳血管疾患と続く。また、全国と同じく、自殺者は男性が女性の約2倍にのぼり、逆に老衰は女性が男性の3倍以上となっている。



自殺者数の推移(全国)

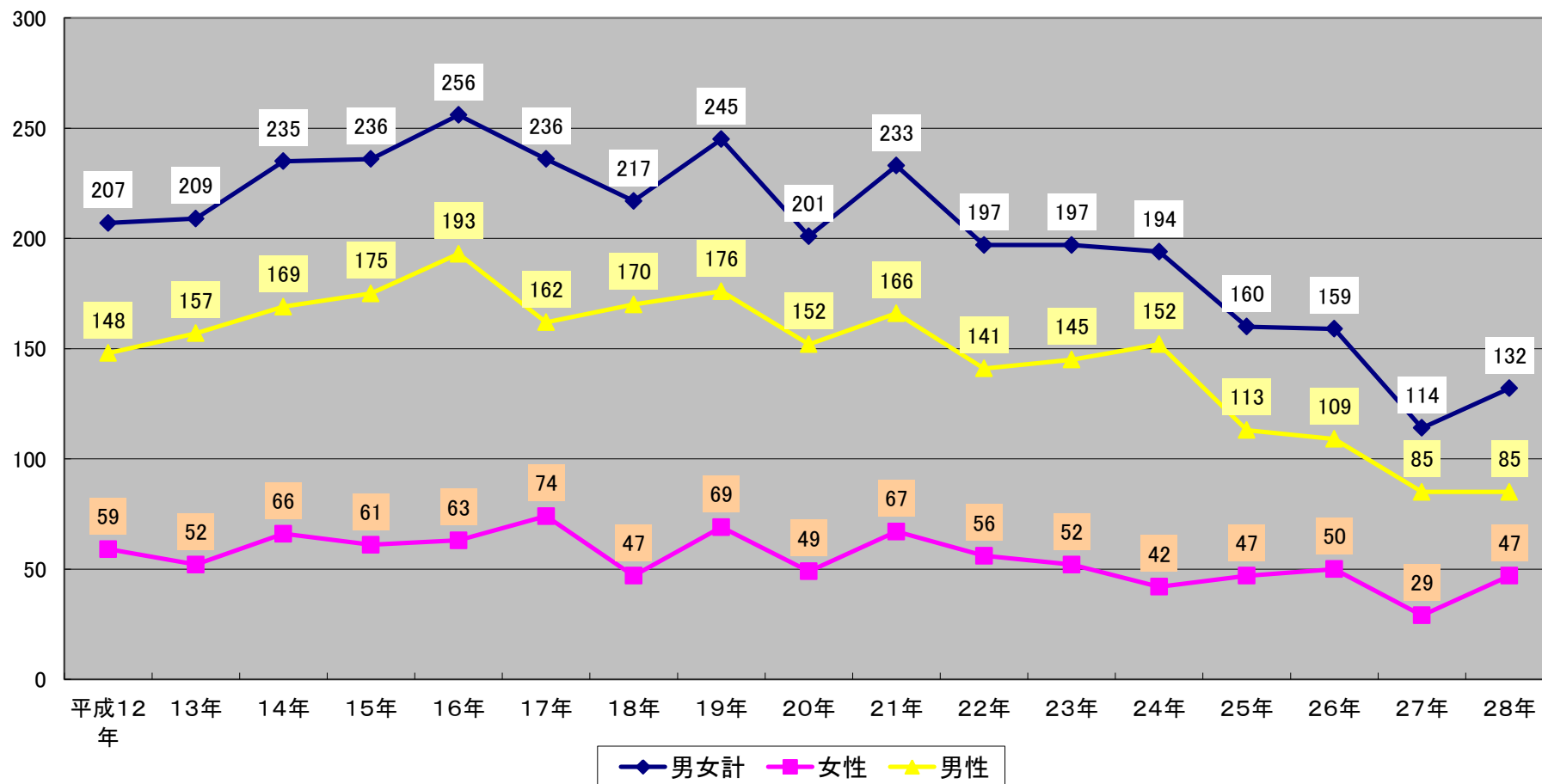
(人) 全国における自殺者数は、年間2万1千人を超えている。特に、男性の自殺者数は女性の自殺者数の2倍以上にのぼる。



資料：厚生労働省「人口動態統計」による。

自殺者数の推移(高知県)

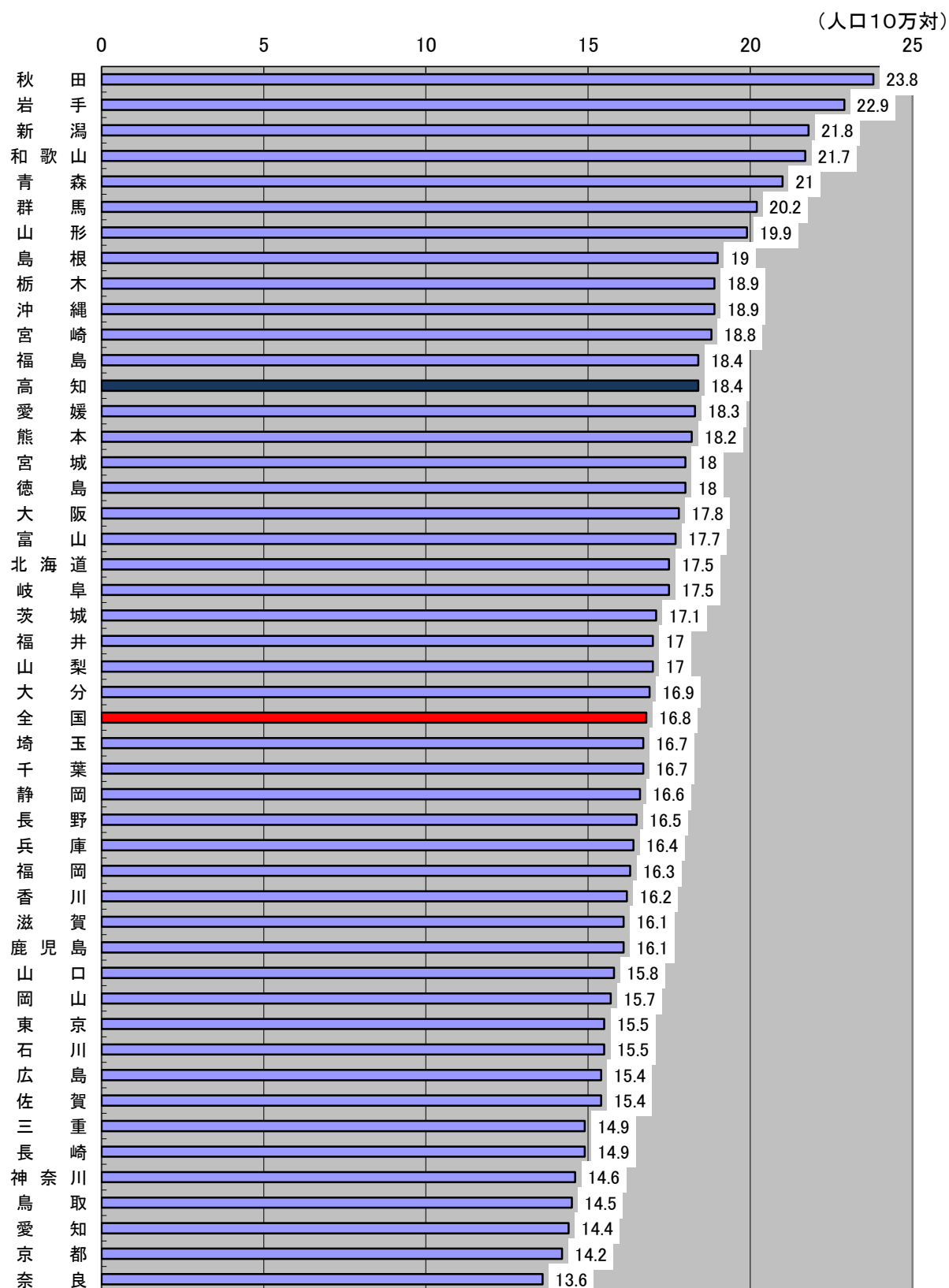
(人) 本県における自殺者数は、平成22年から200人を切ったが、依然として男性の自殺者数は女性の2倍近くにのぼる。



資料：厚生労働省「人口動態統計」による。

都道府県別自殺率(平成28年)

平成28年度の本県の自殺率は18.4で、全国で13番目になっている。



資料:厚生労働省「人口動態統計」による。